

アトピー性皮膚炎で心臓血管病リスク上昇

成人のアトピー性皮膚炎と心臓血管病のリスクについて、アトピー性皮膚炎の重症度や活動性との関連も含め、地域住民ベースのコホート研究を実施し検討した。

1998～2015年の英国の電子診療録および国家統計局のデータを用い、成人のアトピー性皮膚炎患者 387,439 例（アトピー性皮膚炎群）と、年齢・性・受診医院・暦を一致させたアトピー性皮膚炎のない 1,528,477 例（対照群）が対象となった。コホート登録時の年齢中央値は 43 歳、女性は 66%であった。中央値 5.1 年の追跡の結果、アトピー性皮膚炎群は対照群に比べ、非致死的心臓血管病リスクが 10～20%高かった。また、アトピー性皮膚炎の重症度は心臓血管転帰のリスクと強い関連を示し、重症者では対照群と比べて脳卒中のリスクが 20%高く（ハザード比 1.22）、心筋梗塞や不安定狭心症、心房細動、心臓血管病死のリスクは 40～50%上昇、心不全のリスクは 70%高かった（ハザード比 1.69）。追跡期間の半分を超えてアトピー性皮膚炎が活動性であった人も心臓血管転帰のリスクが高かった。

したがって、アトピー性皮膚炎は心臓血管病のリスク上昇と関連し、アトピー性皮膚炎の重症度および活動性の高いと心臓血管病のリスクも高くなることが示された。アトピー性皮膚炎患者への心臓血管病予防戦略も考慮が必要であることが示唆された。

出典：British Medical Journal. 2018 May 23; 361: k1786.